

1 チームづくり

U12世代のチームづくりにおいて最も大切なものは「環境」であり、その環境づくりに必要な要素として「仲間」「保護者」「施設」「地域」「コーチ」などがあります。「育成年代」の子どもたちにとって良い環境を築くことはバスケットボール競技における技術や体力の向上のみならず、健全育成や人間形成においてもとても重要です。

仲間

「地域の仲間」「学校の仲間」「バスケの仲間」といったいくつもの輪が考えられます。近年では核家族化や少子化の影響もあり、人間関係の構築が苦手な子どもが増えています。人と人とのつながりが広がってこの年代において、スポーツを通じて「仲間づくり」に取り組める環境を作ることはチームを運営する上で大切となります。

保護者

チームの主役は子どもたちですが、子どもたちの心の成長や身体の成長に大きな影響があります。活動中のサポートだけでなく、日常における子どもたちの体調管理や栄養管理など「成長環境」を作る存在として、保護者は最も重要な要素であると言えます。

施設

小学校体育館、公共体育施設、屋外運動場のほか、近年では家庭用ゴールなども充実しており、ここ数年で活動できる場所は増加傾向にあると言えます。今後も安定した活動場所の確保と使用ができるように、利用者のあり方や使用に対する考え方を子どもたちとともに考えるなど、活動が社会的マナーを学ぶ機会として活かされる場となる必要があります。

地域

チームづくりに直接的ではありませんが、活動に対する地域の理解、子どもたちの地域での関わりや交流などは重要です。チーム活動を優先するがあまり、子どもたちが関わる環境を狭めることになることは、健全育成や人間形成の観点からすればマイナスとなります。子どもたちはバスケットボールだけでなく、地域や学校、家族など、様々な環境のなかで育まれることが大切であるということを理解しなければなりません。

コーチ

以上のことを踏まえながら、チームづくりや運営の中心となるべき存在がコーチです。つまり、技術指導だけではなく、チームマネジメント力が必要であり、重要です。チームづくりにおいては、チーム責任者がその役割を担いますが、多くのチームはコーチが兼ねており、コーチは環境の一部でもありながら、

運営を管理することで環境を構築する役割も担うことになります。コーチは子どもたちや保護者との人間関係における「信頼性」のほか、「安全性」「透明性」「将来性」など広い視野のもと、様々な角度や立場から活動の評価が必要です。また、そのような評価を代表者やコーチ自身はもちろんのこと、保護者や関係者とも行いながら充実化していくことが良い環境を生み、良いチーム運営につながると考えます。

チームには様々な子どもたちが所属しますが、「子ども一人一人に均等な活動の機会が与えられるよう、場や時間を配慮」したり、「子どもの負担が重くならないよう、活動の質と量を工夫」したりして、すべての子どもが楽しく、生き生きと活動できるように配慮することが重要です。また、多くの子どもが所属するなかでも、一人一人の子どもに対してきめ細かな指導ができるよう、複数のコーチを確保することが望ましいです。さらに、コーチ間で目的と目標をしっかりと共有し、役割分担を上手に行い、円滑に指導を進めることや、チームの目的・目標・指導方針を明確に示し、保護者・プレーヤーに提示して理解してもらうなど、全員でチームを作り上げるという意識も必要です。子どもたちがスポーツの「楽しさ」「喜び」を感じることができる良い環境のなかで活動できることこそが、スポーツの価値となります。そのためにも我々は、子どもたちが自発的に取り組みながら自己実現できるようなチームづくりと環境づくりを心がける必要があります。



2 子どもとのコミュニケーション

U12世代では、経験や知識などを発揮する年代ではなく、吸収する年代であることから、心も身体も「育つ」ことが重要となります。その過程で、**コミュニケーションを図ることは「子どもたちを知る」「子どもたちとの信頼関係を築く」**ことにつながり、指導において最も重要な行動です。育成年代では「出来ないことが出来るようになる」ことは大事ですが、「出来ないことを出来るようになりたいと思えるようになる」ことも重要です。つまり、肉体的トレーニングより、神経系トレーニングや心（考え方）に関する指導を重視するべきだと言えます。

失敗も多く、成長過程を他者や世間と比較されやすい子どもたちは、ネガティブ思考に陥りがちになることも少なくありません。そこでコーチは、コーチが目指したい姿ではなく、子どもたちが目指したい姿を理解し、個々の取り組みを評価しながら、子どもたち一人一人の悩みや思いを共有し、ともに成長しようとする姿勢を見せていくべきです。そのためには、子どもたち一人一人とのコミュニケーションは重要であり、子どもたちの不安や喜びを共有するために注意深く観察し、その瞬間を逃さず感じ取れるコーチの感性も必要です。また、子どもたちはコーチの期待や求めに対し、常に正解を出そうと考えたり、多くの不安を抱えたりすることで、発言を躊躇するなど自ら発信することが少なくなることがあります。そのため、**大人側からの積極的な働きかけや、発言を引き出す方法の工夫により、十分なコミュニケーションが図れるように努力していかねばなりません。**この積極的な働きかけとは「指導」という名の一方的な「指示」や「叱咤激励」ではなく、「会話」という名の「相互の意思疎通」です。

3 保護者対応

保護者は子どもたちにとって大切な存在であり、チーム運営においても重要な存在です。**チーム代表者やコーチから見れば、「子どもたちの責任者」という存在でもありますが、健全育成や人間形成という観点からはともに子どもたちを育てるうえで、コーチと保護者は双方の理解や信頼が必要な存在です。**その意味では、保護者会などのチーム運営に対する協力等において、その内容がエスカレートし、過度な協力や重責を与え、チーム代表者やコーチの考えを強要するようなことは絶対にあってはなりません。子どもたち同様、コミュニケーションを図ることや情報を共有することで、お互いの考えを理解し、信頼できる関係を築くことが重要であり、そのことが子どもたちの活動環境を良くすることにつながっていきます。

各家庭には様々な事情と考えがあり、日常や休暇の過ごし方も多様化しているなかで、チーム競技という特性から、団体行動であることの重要性を強調するがあまり、各家庭や個々の生活環境までもコントロールするようになり、家族に不自由さやストレスを生み出すことがあってはなりません。もちろん、一定の条件に基づいた活動を行わなければ得られないこともあり、団体競技であるがゆえに得られるもののために、**「協調」の必要性や「共同」による仲間意識の向上を求めることもあると考えます。**必要なのは、「活動に対する理解」であり、そのための時間は惜しむことなく保護者対応をする必要があります。

